

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年11月7日

【評価実施概要】

事業所番号	1172000364
法人名	財団法人 鳩ヶ谷中央病院
事業所名	博寿会 ゆとりの郷
所在地	〒334-0001 埼玉県鳩ヶ谷市桜町6丁目12番55号 (電話) 048-283-3611

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年11月7日

【情報提供票より】(平成19年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算	6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000・65,000 円	その他の経費(月額)	15,000円 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日あたり 1,333円				

(4) 利用者の概要(12月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	73 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鳩ヶ谷中央病院、赤羽歯科鳩ヶ谷診療所
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高台の豊かな自然の中に、母体法人の医療機関と当ホームが立地している。ホームの理念には、「共に生きる住まい」を前提にして利用者最優先の介護サービスを掲げている。職員の多くは、母体病院の経験豊かな介護職員が配置され、認知症ケアの経験を十分積んでいる管理者のもと、職員が理念の実現に向け、利用者の安心・安全を第一と考えながら前向きに日々のケアに取り組んでいる。このような環境の中で暮らす利用者の表情は穏やかで、自分の趣味、利用者同士の話、隣接する農園に好きな農作物を植え、それを育てて果実を食するなど、生き活きと時を刻んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果を受けて、管理者をはじめにして職員全員で話し合い改善策を求め日々の実践につなげている。この結果運営推進会議については、平成19年に第1回目を開催して以来すでに6回実施しており、可能なことから運営に反映しているところである。市町村との連携については、運営推進会議に地域包括支援センターの職員を委員に取り込むなどして連携を深めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が中心になり職員全体で取り組んでいる。具体的には、毎日のミーティングの時に各個別事項について職員から意見を聴き、職員納得の上、作成されたものとなっている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>平成19年12月に第1回を開催して以来、約2か月に1回実施している。会議は報告事項が主となっており、市の担当課に報告しているところである。また、この報告事項の中でヒヤリハットの事柄を報告するとともに対応及び解決策についても諮っているところである。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月の暮らしぶりを写真やメモなど添えて封書で報告している。この他に2か月に1回の割合でグループホーム通信を送り、ホーム全体の状況を家族に報告している。家族等からのホームに対する意見や要望については、声かけなどをして引き出すように努力しているところである。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており、自治会の行事への参加やホームの行事に招待するなど地域の人々との相互交流に努めている。前庭には見事な桜の大木があり、春には近隣の住民がお花見に來たり、年2回実施する防災訓練を見学したり、近くの保育園児とも交流がある。日常的に地域住民とかかわる機会があり良好な関係が築かれている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に生きる住まい」を前提にして地域住民との交流の下、利用者最優先の介護サービスの提供を掲げ、これを事業所独自の理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者最優先を基本にして独自の理念を作り、毎日のミーティングで管理者、職員が個々に確認しあいケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、自治会行事へ参加するとともに、ホームの行事に地域の人々を招待するなどして相互の交流を図っている。前庭には桜の木があり、春には地域の人々が桜を見に来たり、年2回実施する防災訓練などを見学するなどして自然に地域との交流がなされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、自身の仕事を振り返り反省をする機会となっており、日常的にケアを見直す姿勢がある。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された事柄を職員全体で受け止め、可能なことから順次運営に反映されている。具体的なものとしては、ヒヤリハットの事例を報告し、対応の仕方や解決策などを諮っている。現在、2か月に1回実施しているところである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも利用者に変化があった場合や運営等で疑問があった場合は、そのつど話し合い連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回、利用者の暮らしぶりを写真を添えて封書で出し報告をしているほか、2か月に1回「グループホーム通信」を送り、ホーム全体の状況を家族に報告している。また、訪れる家族には、そのつど直近の状況を伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	様々な行事の際に家族やその関係者に話し掛け、要望や苦情が出やすい状況を作っているがなかなか表出されないため、運営推進会議で話し合っているところである。		開設して約4年が経過するが、要望や意見等が無いとなると、今後の運営方向を明確に出すことも困難を要する。例えば毎月封書で出す書類にアンケート用紙を作成の上同封するなど、意見等を引き出す工夫した取り組みが期待される。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当制になっているが、利用者一人ひとりの性格や気持ち、特徴等の情報は職員間で共有しているので、個々にダメージが少ない方法を取っている。また、「グループホーム通信」に職員の異動や離職について記載し、家族に紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修については、多くが経験豊かな病院からの介護職員のため職場内研修を実施している。年次研修については、勤務ローテーションを工夫して多くの職員が受けられるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、学習等がある場合は勤務ローテーションを工夫して参加をしている。また、年4回程度実施される福祉関係研修には、できる限り参加をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>希望により見学や体験入居が可能である。また、ホームに気軽に遊びに来るなどして、徐々に馴染みながら入居できるよう柔軟に支援をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は居室にすることが少なく、フロアでテレビを見たり自分の趣味をしながら職員と過ごす時間が多くある。この時間を大切にして昔話や趣味の話などしながら共に支えあう関係を作っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの暮らしを見ながら思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族等からも話を聞くなど情報収集しながら本人本位に検討し、意向把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族との日ごろのかかわりの中でその思いや意見を聴き取り、その上で職員間で話し合って利用者一人ひとりにあった介護計画を作成している。また、モニタリングも実施されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の観察や記録をもとに、定期的な見直しを行っている。状況に変化が生じた場合は、本人、家族、職員が話し合い、新たな計画を作成している。なお、定期的な見直しは6か月ごとである。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日帰り旅行(梨狩り、葡萄狩り)の送迎や初詣の送迎を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望しているかかりつけ医の受診については、家族による対応を基本としているが、急な場合は併設の病院で対応している。なお、定期的な受診については、併設病院と連携をしながら実施している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化してきた場合や終末期については、入居時に家族に説明しており、併設の病院運営母体に入院することとなっている。事業所としてどの段階まで対応することが可能か明確にし、方針や支援の具体的な内容については今後の検討事項である。		終末期や重度化に伴う支援はどの程度まで出来るのか、関係者で話し合っ事業所に対応しうるマニュアル的なものを作成するなど、具体的な方針の共有を図っていくことが期待される。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねることのないように言葉かけや対応には十分配慮している。また、個人記録は個々にファイルされ、保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を尊重し、利用者一人ひとりのペースに合った日々の暮らしを支援している。例えば中庭でのティータイム、散歩、趣味の実践である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、食事の準備、片付けなどは職員と利用者が一緒になって行っている。また、ホームの庭で収穫された梅、竹の子、銀杏を調理し食卓を飾ることもある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則週3日としているが、希望があれば毎日でも入浴することが可能である。また、希望に応じてデイサービスセンターの大浴場を利用することができ、利用者にも喜ばれ、景色もよく露天風呂に入っている気分で入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編み物、雑巾づくり、トランプ等の趣味で個々の力が発揮できるような環境作りをしている。金魚の世話、草花への水やり、菜園での農作物の栽培なども楽しみの一つになっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの寺院の境内の散歩など、恵まれた環境を十分に活用しながら戸外で過ごす機会を設けている。また、外食、100円ショップへの買い物など、心身の活性化につながる外出支援を積極的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの出入り口のみセンサーが取り付けられ、職員の見守りの徹底とともに利用者の安全に配慮した自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力により年2回の防災訓練を実施している。併設の病院敷地が災害時の近隣の避難所となっており、何かあった場合には相互に協力できるように自然に体制が築かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材については、栄養バランスやカロリーに配慮されたものを一括購入している。献立には時々ホームでの収穫物を取り入れて楽しむなど工夫がなされている。水分摂取量はきちんと記録され、一人ひとりに応じた支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体にゆったりしたスペースとなっている。観葉植物、ゆっくり寛げる応接セット、自分たちが共同で作った季節感のある貼り絵などが飾られてあり、満足感のある共用空間になっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の馴染みの品物が持ち込まれており、利用者それぞれの個性が感じられる居室になっている。		